

貨客混載の実施に係るニーズ事例集について

1. 茅野市（長野県茅野市）

ちのし
長野県茅野市
人口：54,635人 ※令和5（2023）年1月1日現在

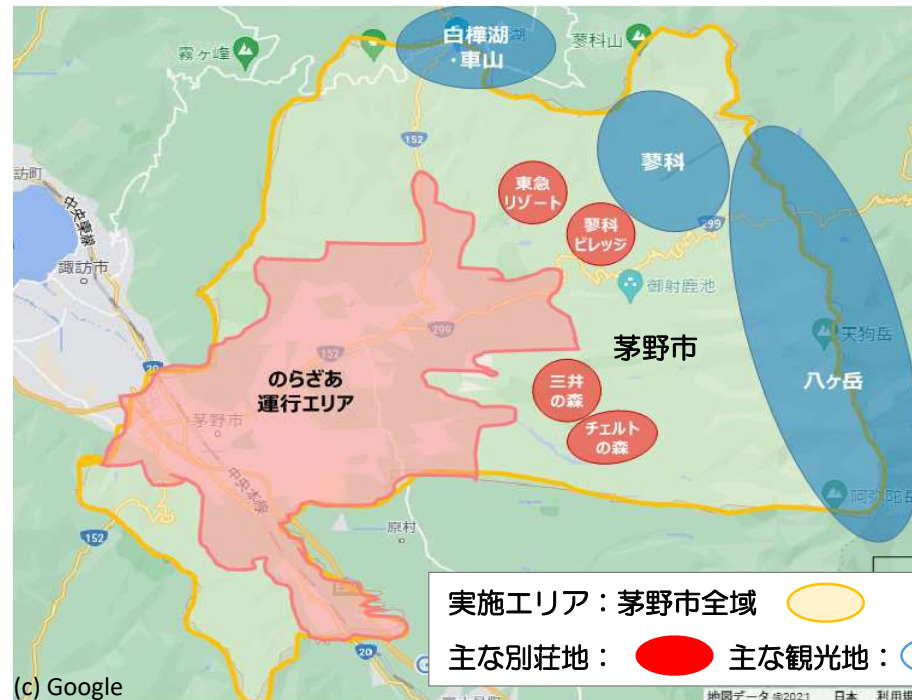
タクシー事業者による医薬品の貨客混載運送

提案の背景

- 茅野市では、一般乗合旅客自動車運送事業（乗合オンデマンド交通「のらざあ」）が人口の密集する市街地エリアで運行されているが、高齢化・定住化が進む別荘地エリアは運行区域外となっている。
- 運行区域外の別荘地エリアでは、家族等を在宅で看護する別荘利用者などから医薬品配送ニーズが一定程度存在する一方、当該エリアへの配送は物流事業者にとって大きな負担となっている。

貨客混載の実施計画（案）

実施事業者	タクシー事業者（協議中）
運行区域	茅野市内全域
運送品目	医薬品
運送頻度	平均9回（1日1台あたり：見込み）
荷物取扱量	35件（1日あたり：見込み）
運賃	距離料金＋手数料 又は 定額制（協議中）



関係者の反応

【タクシー事業者の反応】

- タクシー救済事業での医薬品の配送は、タクシー料金に手数料が上乗せされるにもかかわらず定期的に依頼があり、ニーズがあることが分かっている。一方、タクシー救済事業により医薬品の配送を行っている間は、乗客を乗せられないことが課題。

【物流事業者の反応】

- 別荘地エリアは市街地から大きく距離が離れており、当該エリアへの貨物運送は大きな負担となっている。また、コロナ禍で貨物運送のニーズは更に高まりを見せており、通常の配送だけでも大変な状況。医薬品配送については、現状対応が困難。

【荷主（病院、薬局など）の反応】

- 医薬品を近隣に自ら配送している薬局もあるが、人件費を含めたコストパフォーマンスが悪く、収益が出る事業ではない。特に病院・薬局で薬剤師が不足している現状では、遠方まで配送するのは困難。

【地域住民の反応】

- 子どもの発熱や自分自身の体調不良の際に使いそうな受診から処方された薬を受け取るまでの時間的な負担を軽減できるサービスが実現するのは歓迎。
- 寝たきりの母を在宅看護しており、このようなサービスがあれば、往診時に処方された薬を仕事の合間に薬局まで取りに行く手間が省けてありがたい。

2. 幸田町（愛知県幸田町）

こうたちょう
愛知県幸田町
人口：42,283人 ※令和5（2023）年1月1日現在

タクシー事業者による病院関連物品の貨客混載運送の実証運行

提案の背景

- ・現在は町からタクシー事業者に委託し、地域の総合病院行きの直行便を住民に無料で提供しているが、町の財政逼迫により委託事業の継続が困難な状況。
- ・町からの委託事業ではなくタクシー事業者自身のサービスとして存続させるため、入院患者の着替えや医療機器等の病院関連物品の貨客混載運送を行い、事業の収益性を確保することが必要。

貨客混載の実施計画（案）

実施事業者	タクシー事業者
運行区域	町役場～JR相見駅～藤田医科大学岡崎医療センター間
運送品目	入院患者の着替えや医療機器等の病院関連物品
運送頻度	10件（1日あたり）
荷物取扱量	2kg×10～20箱程度（1件あたり）
運賃	1,500円程度（1回あたり）

関係者の反応

【タクシー事業者の反応】

- ・運転手の労務管理や荷主・荷受間の貨物の発着体制を整理する必要があるが、貨客混載はサービスの付加価値向上につながる。

【物流事業者の反応】

- ・宅配需要が高まり運転手が不足しているため、タクシー事業者と分担して、小貨物を効率的に配送することもできると思われる。

【荷主（病院など）の反応】

- ・貨物の安全輸送や配送するタクシー事業者と病院間の貨物の発着体制を整理する必要があるが、入院患者の着替えや医療機器等の配送のニーズはある。

【地域住民の反応】

- ・貨物の安全輸送と明確な利用手続が確保できれば、有料化されても貨客混載による配送サービスを利用したい。



3. 常滑市（愛知県常滑市）

とこなめし
愛知県常滑市
人口：58,452人 ※令和4（2023）年12月31日現在

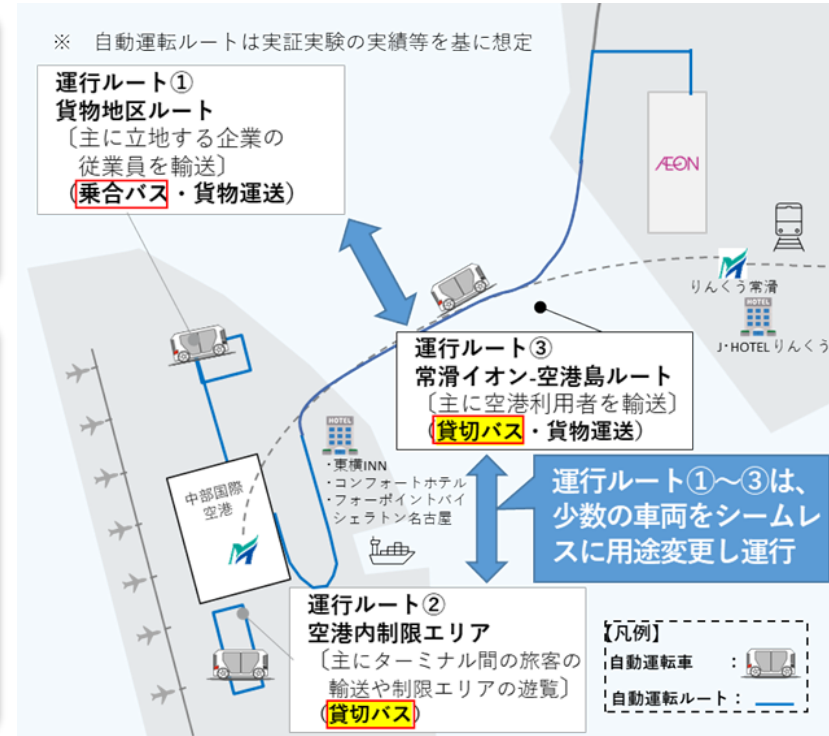
貸切バス事業者による空港利用者の手荷物の貨客混載運送

提案の背景

- 市内交通事業者では、コロナ禍による運転手の離職や高齢化による人手不足が深刻であり、空港島内施設群の回遊、空港島と近隣地域を結ぶ移動手段の不足という地域課題がある。
- 2017年度以降、民間事業者が中心となって、自動運転車両を活用したバス運行のビジネスモデルの社会実装を推進。
- 自動運転車両は高額であるため、車両の利用頻度を高め、採算性の高い運行形態を取らなければビジネスとして成立しないことが課題。

貨客混載の実施計画（案）

実施事業者	貸切バス事業者など
運行区域	中部国際空港島及び空港島周辺地域
運送品目	空港利用者の手荷物
運送頻度	片道24回程度（1日あたり）※1 ※1 運行ルート③の場合
荷物取扱量	5～10個程度（1台あたり）
運賃	ホテルが貸切バス事業者に配送委託料としてサービス料を支払う。（旅行者は無料又はホテルにサービス料（コインロッカーの代金程度※2を想定）を支払う） ※2 300～600円/日



関係者の反応

【物流事業者の反応】

- 空港島で提供している配送サービスに周辺ホテルへの配送は含まれていないため、自動運転バスによる貨客混載が実現しても影響はない。
- 空港島・周辺エリアに限らず貸切バスによる貨客混載が実現されても影響はない。自社の貨物配送を貸切バスに委託するなど協業も可能かもしれない。
- 地域の事業者団体の会員は基本的に宅配をしている事業者が少ないため、貸切バスによる貨客混載の影響はないのではないか。

【地元観光関係者の反応】

- 空港に荷物を運ぶだけでなく、荷物の事前チェックインができるようになると、空いた時間で観光などに時間を使えるようになるのではないか。
- 海外旅行者からの手荷物預かりの問合せもあるため、空港からホテルに直接荷物を送って、手ぶらで観光できるようにするのは良い取組ではないか。

【地域住民の反応】

- 空港利用者や国際展示場の来場者で鉄道が混雑することがあり、手荷物を鉄道と別に輸送することで、住民や空港従業員にとって利用しやすい鉄道になるのではないか。

4. 北斗市（北海道北斗市）

北海道北斗市

人口：44,366人 ※令和5（2023）年1月1日現在

タクシー事業者による生活用品、医薬品等の貨客混載運送

提案の背景

- ・地域公共交通計画策定時に実施した住民ヒアリングでは、特に高齢者から公共交通機関を利用した買物や自動車運転免許返納後の移動を不安視する声が多く寄せられた。
- ・こうした中、食料品では市内のスーパーマーケット等が買物支援サービスを行っているが、日用品その他の生活必需品では同様のサービスは展開されていない。
- ・現在は過疎地域に限定されているタクシー事業者による貨客混載運送の対象地域が拡大され、市民の買物手段の多様化の実現されることを期待している。

貨客混載の実施計画（案）

実施事業者	タクシー事業者
運行区域	市内
運送品目	生活用品、医薬品等
運送頻度	週に2～3回程度
荷物取扱量	50個程度（1回あたり）
運賃	距離料金＋手数料を想定



関係者の反応

【タクシー事業者の反応】

- ・現行制度では飲料・食料の配送しか認められておらず利用しにくいですが、車両に積めるものであれば配送は可能。特に生活用品は需要が高いと思われる。

【物流事業者の反応】

- ・コロナ禍の貨物輸送ニーズはやや落ち着いてきたがまだ終息はしていない。消費者が求める配送料金とタクシー事業者が必要とする配送料金をいかに一致させていくかが課題になるだろうが、買物難民となる高齢者への対応としてタクシー事業者による貨客混載事業は効果があると思う。

【荷主（ドラッグストア等）の反応】

- ・タクシーや家族の送迎による来店者が多く、買物の移動に不自由な高齢者が多い印象。電話注文を受けてタクシー事業者が個人宅に直接配送するといったサービスには需要がある。サービス提供の新しい手段が確保されることは、顧客の利便性向上や新たな需要創出にもつながるものと期待している。

【地域住民の反応】

- ・今後、自分で運転できなくなった場合、買物や通院の移動手段がなくなってしまうことが不安。地元のタクシー事業者による配送は新しい買物の手段確保として期待できるので、ぜひ利用しやすい配送料金を設定してもらいたい。

5. 館山市（千葉県館山市）

たてやまし
千葉県館山市

人口：44,677人 ※令和5（2023）年1月1日現在

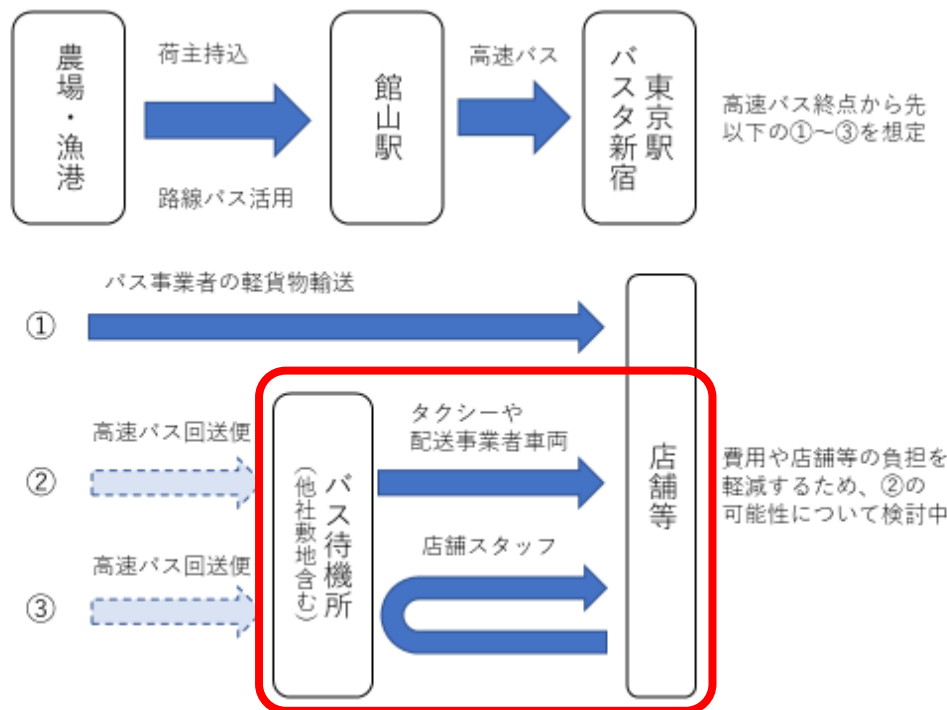
ラストワンマイル配送のためのタクシー事業者による農水産物等の貨客混載運送

提案の背景

- 豊かな農水産物の産地であり、かつ、一大消費地である東京に近接している館山市の特徴を活かした取組として、市内の農水産物などを都心エリアに高速バスで輸送する事業構想があるが、都心エリアのラストワンマイル配送を担う事業者の確保が課題となっている。
- 都心エリアのタクシー事業者にラストワンマイル配送の担い手となってもらうことは、コロナ禍で厳しい経営環境に立たされている事業者の新たな収益源となる上、持続可能な形態を実現できる可能性がある。

貨客混載の実施計画（案）

実施事業者	高速乗合バス事業者、タクシー事業者など
運行区域	都心エリア
運送品目	農水産物等
運送頻度	週に1回～2週間に1回程度
荷物取扱量	5個程度（1日あたり）
運賃	3,000円（1個あたり）



関係者の反応

- 【高速乗合バス事業者の反応】**
 - 都心エリアでタクシー事業者による貨客混載運送ができるようになれば、都市をまたいだ農水産物等の配送サービスのニーズは十分あると考えている。
- 【荷主（農水産物の生産者）の反応】**
 - 都心エリアでの配送手段を充実させることで、自身が生産した農水産物を鮮度を保ったまま消費者（店舗）へ直接届けることが期待でき、農水産物のブランドイメージを高められるのではないかと。小規模農家・漁師としても一大消費地への販路が確保できるのは歓迎。
- 【都心エリアの物流事業者の反応】**
 - 農水産物の配送自体は可能だが、コスト面などの問題から対応できない店舗もある。貨客混載運送であれば採算面のハードルも下がり、継続的に配送できる可能性もあるのではないかと。
- 【都心エリアの地域住民の反応】**
 - 取扱店舗（飲食店）を訪れる人からは新鮮でおいしいと好評。産地直送の農水産物を比較的安価に日常的に購入できる機会が増えるのは歓迎。

6. 奈良市（奈良県奈良市）

ならし
奈良県奈良市
人口：351,418人 ※令和5（2023）年1月1日現在

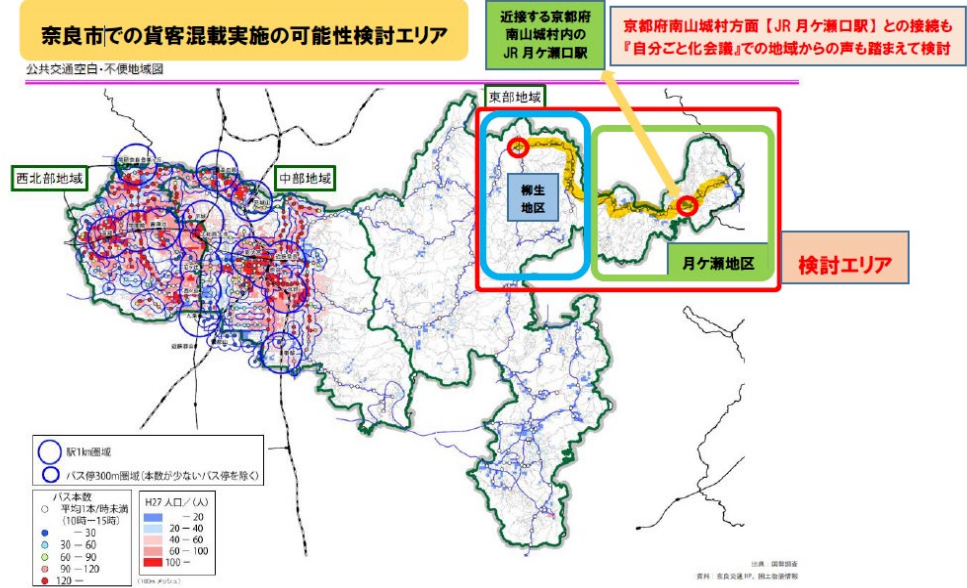
公共交通網の維持と物流網の確保のための貨物運送事業者による貨客混載運送

提案の背景

- 月ヶ瀬地区は平成17年4月に旧月ヶ瀬村が奈良市に編入合併した中山間地域で、当市の市街地から1時間程度の距離があり、人口減少が続く中、高齢化率も46%を超えるなど、今後の生活基盤の維持が困難な地域になりつつある。
- 今後も人口減少が進むと想定される当該地域において、地域の移動手段の確保と、物流網の維持が急務となっており、持続可能な地域の生活基盤を確保するための試みとして、貨客混載を活用した持続可能な交通ネットワークと物流ネットワークの構築を実現したい。

貨客混載の実施計画（案）

実施事業者	貨物運送事業者など
運行区域	・月ヶ瀬地区～柳生地区間など
運送品目	食料品、生活必需品、宅配貨物等
運送頻度	6～8 件程度/日
荷物取扱量	150kg程度/日
運賃	貨物：200～300円/個程度 旅客：100～300円/人程度



- 奈良市柳生地区に市街地からの交通の乗換拠点と物流の積換拠点を確保し、月ヶ瀬地区～柳生地区までの貨客混載による運送の実施を検討
- 月ヶ瀬地区内の拠点からは地域内交通と地域内配送を兼ねた貨客混載による運送の実施を検討

関係者の反応

- 【交通事業者の反応】
 - 当該地域を運行するバス路線は行政の補助なくしては運行出来ない状況。貨客混載の実施により地域の公共交通維持に繋がるのであれば異論はない。
- 【物流事業者の反応】
 - 現在貨客混載を検討している地域は、従来の物流サービスを維持することが今後困難になる地域であり、行政とも連携した貨客混載の実施は物流サービスを維持していくための有効な選択肢になり得る。
- 【荷主（飲食店など）の反応】
 - 配食サービス等のニーズはあるだろうが、配達距離が長くなる中山間地域の個別配送は負担が大きいため、貨客混載を通じた物流効率化には期待している。
- 【地域住民の反応】
 - これまで地域を支えていたスーパーマーケットが閉店してしまったので、自動車が無いと移動販売に頼らざるを得ない状況。食料品や生活用品などの日用品を配達してくれる新たなサービスが実現されればありがたい。